

Title	介護サービス供給システムおよび費用保障制度に関する研究
Sub Title	
Author	佐久間朗(Sakuma, Akira) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1085号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1085">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1085</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

佐久間 朗

主査 田中 滋

(第一生命保険相互会社)

副査 青井 倫一

高木 晴夫

所属

田中 滋 研究室

## 介護サービス供給システムおよび費用保障制度に関する研究

日本社会において、今後高齢化の進行に伴って増加する要介護老人への対応は重要な課題である。本研究では、まず効率的資源配分と社会的公正を評価基準に老人介護に関する現状分析を行った。

その結果「情報の不完全性」「不確実性」に起因する市場の失敗の補完を行い、家計からの介護サービス生産の外部化を促進することの重要性が明らかになった。

これを踏まえて事例分析を行い、

- ①介護サービス生産の外部化によってサービス提供方法の多様性が増し、介護サービス生産の時間消費性を改善することが容易になる
- ②情報の不完全性に起因する消費者行動の非効率性を改善するためにエージェントの導入が効果を持つ
- ③介護を対象とした費用保障制度を整備することにより不確実性への対応が可能となり、潜在的なニーズの需要への転化、サービス生産の外部化がスムーズに進むとの結論を得た。

また、サービス供給システムとそのサブシステムであるエージェント、費用保障制度はそのいずれを欠いてもそれぞれの機能が十分に発揮されない。日本では特にエージェントについて立ち遅れているが、生命保険会社は社会的期待に応え介護保険市場の発展を図るために、今後その基盤整備にあたって積極的に役割を果たしていくべきである。